



中秋の名月



宇根山天文台だより



中秋の名月を観賞する習慣はいつごろから始まったのでしょうか。それは9世紀末ごろ中国から伝来したと言われており、平安朝以降、宮中の行事や貴族階級の観月の宴として催され、風流を重んじた、季節を象徴する行事とされてきました。

江戸時代になると、このような行事と日本古来の月を祭る信仰が融合し、庶民にまで広まりました。これが現在まで継承される十五夜行事のゆえんと考えられています。

月見には、ススキや花を飾り、さまざまなお供え物をします。団子やおはぎなどの作り物、里芋・さつまいも・大根などの畑作物、柿・栗・梨などの果物があります。そのほか、酒や灯明など、その地域によってさまざまな組み合わせがあります。中でも、お供え物として全国的に見られるのが、ススキと里芋です。ススキは、かやぶき屋根に使われるなど、古くから人びとの生活に有用な植物として位置づけられてきました。また、中秋の名月は別名「芋名月」と呼ばれ、もともと農作物の豊作を祈願していたものと言われ、この行事が単なる月見ではなく、農耕儀礼としての性格を持つことがうかがえます。

さて、「中秋の名月」「仲秋の名月」

中秋の名月観望会 & しの笛コンサート



秋の夜長に、しの笛の音色とともに、風流なひとときを過ごしませんか。
 とき 10月3日(土)18時~22時
 参加費 大人310円、中学生・高校生210円、小学生100円、小学生未満無料
 問い合わせ先 青少年女性課(☎0848④9234)、宇根山天文台(☎0847③7145)

どちらが正しいのでしょうか。中秋とは旧暦の8月15日のことで、仲秋は8月を示す言葉です。名月を満月と解釈すれば「仲秋」でも間違いとは言えませんが、「中秋」の方が最近では多く使われているようです。

また、明治に改暦が実施されたことで、伝統的行事などは、毎年、日が異なることがあります。中秋の名月も、早い年では9月上旬から、遅い年では今年のように10月までずれ込むことがあります。

秋の夜長、満天の星に手の届きそうな宇根山で、夜空を見上げながらはるか宇宙の世界に思いを巡らせましょう。スタッフ一同が、ロマンと歴史の空間へ案内します。

宇宙教室 世界天文年2009記念 特別天文講座

9/27日
13時30分
~20時

ところ くい文化センター、久井青年の家、宇根山家族旅行村、宇根山天文台

※会場間の移動は各自で行なってください。

対象 市内の小・中学生とその家族 定員 150組(申し込み先着順)

申し込み 15日(火)までに電話またはファクスで青少年女性課(☎0848④9234 FAX 0848⑦5912)へ



13:30~15:30 天文講座~宇宙がむすぶ家族のきずな~
くい文化センター

内容 宇宙や天文についての講演、宇宙服のレプリカや「きぼう」「スペースシャトル」の模型展示、JAXAのDVD上映コーナーなど
 講師 JAXA技術参与、NPO法人子ども・宇宙未来の会会長の川泰宣さん



的川泰宣さん

16:00~17:00 工作教室~望遠鏡を作ってみよう~
久井青年の家

内容 簡易天体望遠鏡の作成



17:15~18:00 軽食タイム~宇宙食を食べよう~
宇根山家族旅行村

内容 宇宙食、地元特産品など



18:30~20:00 天体観測会
宇根山天文台

内容 手作り望遠鏡や大型望遠鏡による天体観測、クイズコーナーなど



宝くじは、広く社会に役立てられています。